

令和6年度 第8回市長と能ん美りカフェトーク

能美市ボランティア連絡協議会との市長と能ん美りカフェトーク

日 時 令和6年12月9日（月）19:00～20:00

会 場 能美市ふれあいプラザ2階 第2会議室

参加人数 13人

○能美市ボランティア連絡協議会 会長挨拶

○能美市ボランティア連絡協議会 自己紹介

○意見交換

【参加者】市役所が行うイベントの受付に「ボラはあと」を置かせてもらえないかお願いしたところ、快く引き受けていただいた。市役所の窓口にも置いてもらうことはできないか。また、広報のみの「能美の宝」のコーナーに人編や活動編として、ボランティア連絡協議会やボランティアグループ、ボランティアフェスティバルのような活動を取材して、掲載していただけないか。

【市長】広報手段として、紙ベース以外の方法を検討してみてはどうか。若い世代は、ほとんど紙で情報を取りらず、スマートフォンから情報収集をしているので、紙ではなく別の方法で伝えることを考えた方が良いのではないかと思う。ホームページでリンクさせたり、公式LINE等で発信を行ったりする方が効果があるのではないか。チラシ設置はいろいろなところから依頼が来て、たくさん置いてあるので、市民もどれを取ったら良いかわからないのではないかと思う。一時、町会・町内会を「わがまち自慢」として広報紙に掲載していた。そういう形で、能美市の様々な団体をクローズアップして、掲載することはできると思う。一回、持ち帰って検討する。いずれにせよ、紙ベースではない方法で、皆さんの活動や魅力をPRした方が良いのではないかというのが、私の結論である。

【参加者】ボランティアフェスティバルを能美市の公式LINEで配信してもらうことはできるのか。

【事務局】市役所の担当課経由で依頼してもらえば可能である。

【市長】このようなイベントがあるという形で依頼いただければと思う。ボランティアフェスティバルに、目玉があると参加者が増え、皆さんの活動に興味を持つてもらえるのではないか。来年は能美市誕生20周年という節目でもあるので、ボランティアフェスティバルも今までの流れを変えて、趣向を凝らしてみてはどうか。

【参加者】ハリンコ保存会という団体に所属していたが、高齢化と人手不足により解散して、今現在はその団体で行っていた一部の調査などを引き継いで行っている。自分の取組は、人に対するボランティアではないので、ボランティアフェスティバルでも興味を持つてくれる人が少なく、人手不足の状況である。

【市長】ハリンコ保存の状況については、認識不足であった。今、栗生の方や栗生小学校は携わっていないのか。

【参加者】栗生小学校で年1回、児童とハリンコ探索会をやっているが、イベントに近い感じである。自分は2月～10月まで週1回、川に入って調査を行っている。

【市長】ハリンコに関しては、市としてしっかり保存していかなければならないので、どういう状況なのか調べてみる。

【参加者】市内の川には希少種がたくさんいるので、そのデータを世の中に出すと、捕りに来る人がいるので、人を募集することもなかなか難しい。

【市長】生息しているエリアはどれぐらいか。

【参加者】調査しているのは20mぐらいであるが、市内の他の川でもトミヨが確認できているので、能美市内全域に生息している可能性はある。

【参加者】毎週火曜日に寺井地区公民館で手話サークルの活動をしているので、ぜひ市長に見に来てほしい。サークルの中で学習会の担当を決めて、いろいろな方法で学習を行っている。

【市長】市議会で手話通訳士の方が同時通訳をされているが、正確にやっていないとクレームが来る。手話独特の文章に変えてやっているので、タイミングが遅れてしまう。議会の答弁については、事前に手話通訳士の方に内容を渡して、皆さん暗記して対応されてい

るが、質問が出たり、早口だったりすると大変だと聞いている。

【参加者】市職員の手話通訳士の方はサークルに来て、いろいろアドバイスをくれている。

【市長】何人ぐらいサークルに所属されているのか。

【参加者】ありがたいことにここ最近人数が増えていて、20名所属されている。学習会には10名程参加している。

【参加者】要約筆記をしているが、最低3人必要で、紙に書く人、紙を引っ張る人、漏れていた時に補助する人で回している。4人いると、1人休むことができるので楽になる。グループの正式所属が私一人であるので、できれば市役所で要約筆記の講義を開いてもらって、人数を集めたい。

【市長】プロフェッショナルな作業なので、なかなか難しいのではないかと思う。

【参加者】岩内コミュニティセンターを拠点に、自分たちがボケないように様々な活動をしている。辰口町時代にいろいろなイベントを行っていて、その時の物品を岩内コミュニティセンターに保管してもらっているが、いつ撤去してくれと言われるのではないかと心配をしている。いつまで保管してもらえるのか、またサークルがなくなったらどうするか悩ましい。

【市長】しばらく見に行っていないが、使えるものはあるのか。会を存続させるときに、岩内コミュニティセンターに皆さんが持つて来られたのを見ているが、ある時期になったら、使えるものと使えないものを分別するしかないと思う。会の皆さんで判断してほしい。

【参加者】20年間、広報紙等の音訳ボランティアの活動を続けてきた。能美市には、目の不自由な人が60人ぐらいいらっしゃるが、福祉課に確認したところ、私たちが手弁当で1日かかって録音したものを聞いてくれている人は、ほとんどいなかった。それが残念だったということと、高齢化も進んでいるので、今年度をもって会の活動を終了し、また違った形で目の不自由な人に協力できたらと思っている。目の不自由な人たちがいろいろな場所に出ることができないことが問題であると感じる。昨日も街フェスに協力したが、本当に困つていらっしゃる方が多くて、病院へ行くチケットを節約して使っているとのことだった。もうあの人は運転できるが、目の不自由な人は自分で行けないので、行動範囲を狭くしていると感じる。障がいを持っている人たちがどこでどのような生活をしているのか、

福祉課の人たちも見ていらっしゃるとは思うが、もう少し見てほしい。

【市長】能美市として、障がいをお持ちの方の生活環境やサポート状況はほぼ把握している。問題はどこまでできるかということで、全部行政が行うには限界がある。また、障がいを家族がお持ちだったり、人によっていろいろな考え方を持ってたりするので、お一人お一人の状況をしっかりと把握しながら、どのようなサポートができるか考えている。

【参加者】近年、障がいは個性という考え方へ変わってきている。そうはいっても、自分の身内や知り合いに障がいのある人がいない人は、どこか他人事みたいなところがあるのではないかと思う。障がいのある人と障がいのない人が触れ合える場がもっと増えると良い。例えば、ボッチャのような誰でもできるスポーツの大会を開くなど、能美市で触れ合う場が増えれば嬉しい。

【参加者】障がいのある人と障がいのない人が分かれてスポーツをするというイメージがある。分け隔てのない交流ができると嬉しい。

【市長】良い提案だと思うので、何ができるか考えてみたが、子どもたちの多様性を育むきっかけとする方が良いのではないかと思っている。スポーツフェスティバルでボッチャをやるもの一つの手ではあるが、限られた人しか出てこない。それであれば、子どもたちを対象にして行った方が、将来の広がりもあると思う。どのようなやり方が良いのか、一度考えてみる。

【参加者】ボランティアに市長が期待すること、こうあって欲しいということを知りたい。

【市長】行政だけでは手の届かないところがたくさんあり、また、ますますパーソナル化が進んでいるので、どう向き合っていくかと考えると、我々だけでは限界がある。市民の皆さんのお力添えをいただかないと福祉の面が行き届かない。ボランティアというと福祉の面ばかり目が行きがちであるが、自然の保全や能美市で暮らしてよかったですと感じられたり、こんな楽しいこともあるのかと気づけたりする等、いろいろな面の評価があるということをモチベーションに変えて、どんどんやってもらえるような、雰囲気づくりができると思っている。楽しいことや自分たちの生きがいを感じられるようなことも、ボランティアでの活動の中にあれば良いと思う。

【参加者】市職員の皆さんにもいろいろなボランティア活動に参加してもらいたい。

【市長】ボランティア活動とくくると行きにくいのではないか。市の職員には、現地現場に行くように話しており、祭りや運動会、保全活動等、いろいろなところに職員が出て行けば良いと考えている。

【参加者】ボランティアの所属人数が増えている時代があったが、そこから状況が変わり、増えていた時の人たちが今高齢化していて、その下の年代がなかなか入らない。

【市長】伝え方を変えてみると良いのではないかと思う。紙ベースから、スマートフォン等を使って、デジタルで伝えるようにすると、見る年齢や生活スタイルが違う人にも訴求できるのではないかと思う。

【参加者】今まで認知症の対応と周知に関する寸劇をしていたが、今年からはあまり認知症について知らない人に向けて、出し物を変えて、いろいろな場に出向いて周知していくと考えている。

【市長】市では、地域の公民館をデジタル公民館として、多世代交流の場にしようとしている。高齢者はいきいきサロンやスマート教室に、子育て世代の人たちにはeスポーツに、子どもたちは勉強のためにChrome bookを持って公民館に集まり、勉強でわからないところをおじいちゃん、おばあちゃんに教えてもらって交流することを考えている。デジタル公民館で設置した画面を使って、今されている取組をやるのも良いと思う。

【参加者】デジタル推進課で行っている、誰一人取り残さない取組が整ったときに、いろいろな公民館を繋いで、体操指導等をさせてもらって、同時に健康になる取組みができれば良いと思っている。

【市長】それを目指している。

【参加者】13日に東能七郷で、3つの公民館をつないで、デジタルでいきいきサロンをやると聞いている。どのようになるのか期待している。

○能美市ボランティア連絡協議会 副会長 挨拶

○閉会